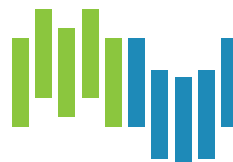


# 入学試験問題集

令和8年度

対話の先に未来を創る



MORIOKA DAIGAKU JUNIOR COLLEGE  
盛岡大学短期大学部

## 目 次

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 令和 8 年度 入学試験問題出題者講評..... | 1 |
|--------------------------|---|

### 学校推薦型選抜

|                   |   |
|-------------------|---|
| 小論文.....          | 4 |
| (令和 6 年度～令和 8 年度) |   |

### 総合型選抜（併願制）

|                   |   |
|-------------------|---|
| 小論文.....          | 4 |
| (令和 6 年度～令和 8 年度) |   |

### 令和 8 年度 一般選抜 試験問題

|          |    |
|----------|----|
| 国 語..... | 5  |
| 解答例..... | 12 |

# 令和 8 年度 入学試験問題出題者講評

## 学校推薦型選抜 小論文

近年、児童虐待の通報件数が増加傾向にあります。その理由として、どのような要因が考えられますか。あなたの考えを述べなさい。

(600 字以上 800 字以内)

### 1 出題の意図（形式・傾向）

出題のねらいは、①課題の意味を正確に把握しているか、②課題を自分の考えで論じているか、③自分の考えを適切な段落構成で、論理的に展開できているか、④正しい言葉、文字を使用し、文章表現の仕方が適切であるか、⑤原稿用紙の使い方が適切で、丁寧な字で指定された字数の中で論じられているか、の 5 点を見ることにある。

配点率は、論理能力（論旨の明確さ、着眼点、独自性）が 6 割、構成（段落構成、章立て）が 2 割、表現能力（文章の豊かさ）が 2 割である。そして誤字、脱字、仮名遣いの間違い、字数の増減等については減点となる。

### 2 採点後の講評

出題は、「近年、児童虐待の通報件数が増加傾向にあり」その理由としてどのような要因が考えられるのか」を問われている。一般的に通報件数が増加傾向にある理由となっている要因として、1 つは、児童虐待に対しての問題が行政や関係機関の作成した啓発ポスターや広告が広く社会に周知されてきていることが考えられる。メディアからの情報も報道以外にドラマや映画で取り上げられ、児童虐待に対する関心が高められ身近な問題として意識されるようになってきている。もう 1 つの要因としては、養育環境の悪化が考えられる。例えば経済的困窮や不安定な就労状態、地域社会における孤立などの生活環境の悪化が引き金となって、児童虐待の発生と増加に影響を与えているのではないかと推測される。

これらの状況などをどのように捉え、社会の状況から児童虐待の通報件数が増加傾向になってきている理由として、要因は何か、なぜそう考えたのか、について論じていくことが要求されている。

今回の平均点は、71.8 点で平年より高い傾向にあった。高評価につながった理由としては、児童虐待の通報件数が多くなってきている要因について、回答者がそれぞれの視点で具体的に挙げられていたことがあげられる。もう少し詳しく見ると、最高点 77.5 点、最低点 62.5 点で、この差が 15 点であった。それは挙げた内容が児童虐待の通報件数が多くなってきている要因について、なぜその内容を取り上げたのかについてその理由が相手に伝わるように論じられていたかどうかの違いがあげられる。思いついたものをそのまま取り上げてしまうと、理由も曖昧になってしまう。他にはないかといういろいろ考えたうえでその中から最もふさわしいものを選んで答えることで、その答えに自信をもって伝えることができ、読み手も共感しやすくなると思う。

## 総合型選抜（併願制） 小論文

ある年長児が「あの子がいるから園に行きたくない」と言ってきました。

あなたが保育者であった場合、この子どもにどのように関わり、どのような援助を行いますか。

子どもの気持ちへの理解、友達との関係づくり、保護者との連携を含めて、あなたの考えを述べなさい。

(600 字以上 800 字以内)

### 1 出題の意図（形式・傾向）

出題のねらいは、①課題の意味を正確に把握しているか、②課題を自分の考えで論じているか、③自分の考えを適切な段落構成で、論理的に展開できているか、④正しい言葉、文字を使用し、文章表現の仕方が適切であるか、⑤原稿用紙の使い方が適切で、丁寧な字で指定された字数の中で論じられているか、の5点を見ることにある。

配点率は、論理能力（論旨の明確さ、着眼点、独自性）が6割、構成（段落構成、章立て）が2割、表現能力（文章の豊かさ）が2割である。そして誤字、脱字、仮名遣いの間違い、字数の増減等については減点となる。

### 2 採点後の講評

出題の内容から、最初に年長児が「あの子がいるから園に行きたくない」と訴える背景に、遊びの中でのトラブルや人間関係の不安など、さまざまな要因が考えられるが、そこで保育者として大切なのは、子どもの気持ちを否定せずに受け止めることである。子どもの気持ちに共感し、安心して自分の思いを話せる雰囲気をつくり、子どもの心を落ち着かせることが第一歩になる。次に、友達との関わりについての支援をすることが必要で、問題となった場面を振り返り、友達との関わりにおいて問題になっていることは何かを理解する。そして問題になっている相手の子と話し合う場を設け、保育者はそれぞれの気持ちを受け止め、それぞれの気持ちを相手に伝えられるようにしながら相手の気持ちに気付くことができるように援助する。さらに保護者との連携を図り園での様子を丁寧に伝えるところに、家庭での様子を伺い、子どもに対する援助の仕方を共有することが大切である。保育者としての姿勢は、それぞれの子どもの気持ちを尊重しながら相手の気持ちを理解させ、いざこざやけんか等の問題場面を通して人との関わり方を学べるように援助していくことが大切な役割であると考えられる。

今回の平均点は、60点満点中49点であり、100点に置き換えた場合81.6点となった。上記の観点を抑えて、当事者の子の気持ちを受け止め、相手の子と関わり、そして保護者との連携を図りながら進めていくことについても抑えて論じていたので高得点となっていた。最初に問題を見たときに、何について問われているのかを把握し、そのことについて自分の考えた対応についてその理由をまとめ、全体の構成を整理して考えることが大切である。

## 一般選抜 国語

### 1 出題の意図(形式・傾向)

国語の入試は、「現代の国語」と「言語文化」の内容を出題範囲としている。

設問は大きく三つからなり、それぞれの問題は、設問〔一〕が7問、設問〔二〕が6問、設問〔三〕が1問となっている。

設問〔一〕は、岸見一郎著の『本をどう読むか』から出題した。問題は、漢字の書き取り5題、漢字の読み取り5題で語彙力を、5択の選択問題5題で読解力を、字数指定の記述問題1題で表現力を主に問うた。

設問〔二〕は、古田徹也著の『いつもの言葉を哲学する』から出題した。問題は、設問〔一〕と同じく漢字の書き取り5題、漢字の読み取り5題で語彙力を、5択の選択問題2題で読解力を、字数指定の記述問題2題で表現力を主に問うた。

設問〔三〕は、柏木博著『デザインの教科書』から出題した。問題は、120字から160字で著書の一文に関する考え方を問い、読解力と文章表現力を主に問うた。

配点は設問〔一〕が42点、設問〔二〕が38点、設問〔三〕が20点で、合計点は100点となっている。

### 2 採点後の講評

国語の平均点は、70.3点（昨年度は73.5点）であった。最高点は79点、最低点は60点であった。

設問〔一〕と設問〔二〕の漢字書き取り問題で誤答が目立ったが、読み取り問題は正答が多かった。また、選択問題にも若干の誤答が見られた。字数指定の記述問題は、正答に近い回答が多かったが、説明不足の面が見られ減点があった。

設問〔三〕の記述問題も、正答に近い回答であったが、説明不十分の部分は減点した。

今年の国語の問題は、例年と変わらない難易度であったが、漢字の書き取り問題と記述問題で得点に差がついた。受験生の読解力と文章表現力についての力を確認することができた一方で、漢字の書き取りに課題が見られた。

日頃から読書に親しみ、自分の考えを文章で表現する力を磨いて欲しい。

令和6年度～令和8年度 学校推薦型選抜 小論文

| 年 度     | 幼 児 教 育 科                                                                                                                                                       |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和 8 年度 | <p>近年、児童虐待の通報件数が増加傾向にあります。その理由として、どのような要因が考えられますか。あなたの考えを述べなさい。</p> <p>(600字以上800字以内)</p>                                                                       |
| 令和 7 年度 | <p>幼児期に大人から掛けられて嬉しかった言葉や対応について、体験を踏まえて答えなさい。</p> <p>また、嬉しいと感じた理由と、子どもたちに関わる際にその体験をどのように還元させていきたいと思うか書きなさい。</p> <p>(600字以上800字以内)</p>                            |
| 令和 6 年度 | <p>現代の生活において、スマートフォンやインターネットなどの利用が必要不可欠になっています。その一方で、子どもたちが自然のなかで遊ぶ経験が少なくなっているともいわれます。そこで、教育や保育における電子機器の効用と自然とのふれあいについて、あなたの考えを述べなさい。</p> <p>(600字以上800字以内)</p> |

令和6年度～令和8年度 総合型選抜（併願制） 小論文

| 年 度     | 幼 児 教 育 科                                                                                                                                                                |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和 8 年度 | <p>ある年長児が「あの子がいるから園に行きたくない」と言ってきました。</p> <p>あなたが保育者であった場合、この子どもにどのように関わり、どのような援助を行いますか。</p> <p>子どもの気持ちへの理解、友達との関係づくり、保護者との連携を含めて、あなたの考えを述べなさい。</p> <p>(600字以上800字以内)</p> |
| 令和 7 年度 | <p>幼児の生活の大半は遊びであると言われ、その遊びを通じて多くのことを学びます。幼児は遊びの中でどのようなことを学んでいると考えますか。</p> <p>また、そのためには、どのような関わりが必要であるか具体例を挙げて述べて下さい。</p> <p>(600字以上800字以内)</p>                           |
| 令和 6 年度 | <p>近年、子どもの遊びにおける「自由に使える時間、異年齢との関わり、空き地や自由に出入りできる野山等」がなくなってきており、コミュニケーション力の減少、体力低下などの子どもたちに問題が生じている。このことについて、あなたはどのように考えるか、理由を挙げて述べなさい。</p> <p>(600字以上800字以内)</p>         |



# 令和八年度 盛岡大学短期大学部 一般選抜 試験問題 国 語

## 〔一〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

思考が自己との対話であるように、読書は著者との対話です。人は一人で生きているわけではありません。外に出かけないで家にこもって仕事をしていると、一日中、誰とも一言も言葉を交わさないということはありません。

たとえ誰とも話さなくても、本を読めば著者と話すことができます。<sup>(a)</sup>読書を「対話」にするためには工夫が必要です。ここで「対話」と書いたのにはわけがあります。

実際の生活においても、話を聞くだけのことがあるように、本を読んでいる時も、著者から話を聞くように受身的に読むことはあります。しかし、私は本を読む以上、書かれていることに共感<sup>(a)</sup>させようとするだけでなく、自分で考え、時には著者に反論するのでなければならないと思うのです。

何も考えずに読んでいるだけでは、対話にはなりません。試験のために、教科書やわずかな参考書を何度も読み返し、そこに書かれていることをしっかり理解し記憶すれば、試験に受かることはできるでしょうが、このような読書も著者との対話とはいえません。教科書を読んでいる時はあまりその内容について疑問を抱くことなく覚えることに全力を注いでいるように思えます。

しかし、読書を著者との対話にするためには、著者が何をいつているのかをただ追っていくのではなく、本を読みながら自分でしっかり考えなければなりません。

著者がいつていることにムジユンがあるかもしれませんし、大切なことなのにそのことにわざとゲンキョウしてないかもしれないかもしれません。間違ったことをいつていることも当然あります。

私は長くカウンセリングをしてきました。人の話を聞くのがカウンセラーの仕事なのですが、ただ黙って話を聞いていればカウンセリングになるわけではありません。話を聞く時に、話されていることに注意深く耳を傾けることが大切であるということはいうまでもありませんが、絶えずなぜ今この人はこの話をしたのだろう、次はどんな話になるだろうかと推測しながら話を聞くのでなければ話を聞くことにはならないのです。

もちろん、思いがけない展開になることもあるのですが、予想していたような話にならないとしたら、相手の話を聞く時に自分の物差しを当てようとしていたからです。

この物差しのことをアドラーは「ライフスタイル」と呼んでいるのですが、こんな時にはこんなふうに感じ、こんな行動をとるだろうと自分の尺度で相手の言葉を理解していることが多いです。自分や他者をどう見るか、また、何か問題を前にした時にそれをどう解決していくかを、人は人生のわりあい早い時期に自分で決めるとアドラーは考えています。アドラー自身は四、五歳と考えていますが、十歳前後ではないかと私は考えています。それから後は大きくライフスタイルを変えることはありません。自分の感じ方、考え方が唯一絶対だと思っている人は、他の人を理解することは難しいですが、その理解が間違っていることにも気づかないことがあります。他の人が自分とは違う感じ方、考え方をしているなどと思わないのです。

ところが、誰かと話している時に、注意深く話を聞けば、自分だったらそんなふうには考えないということを相手がいうことに驚くような経験をするとき、自分にとっては当たり前でも、相手は違う感じ方、考え方をしていることに気づきます。

相手を理解するためには、「もしも自分だったら」と考えるのではなく、「もしも自分がこの人だったら」と可能な限り相手の立場に身を置いて考えることが必要です。アドラーはこれを「同一視」あるいは「共感」といつています。

<sup>(2)</sup>このような意味での共感<sup>(b)</sup>は本を読む時にも必要です。著者と自分のライフスタイルが違うことにまず気づかなければ、著者の考え方を正しく理解することはできません。

また、話を聞いているとき、大切なことなのに相手が話さないことがあります。<sup>(c)</sup>大抵は必ずしも意識的でないのですが、話されないことがあると私はジグソーパズルでいつまでもピースが見つからない時のような気持ちになります。

カウンセリングの時には来談者の考えを批判することはありません。しかし、本を読む時であれば著者の考えに同意する必要はないので、「なるほど」などと感心して読んでいては、著者と対話することはできません。もちろん本に書かれていることを正しく理解していなければ批判することもできないので、相手を理解する、少なくとも理解することに努めることが先決です。

著者と自分は対等なのですから、著者の書いていることを鵜呑みにしなくてもいいのです。私は長年アドラーやプラトンなどの翻訳をしてきましたが、翻訳をしている時には絶えず著者と対話をしています。

「これはおかしいのではないですか」とか「これはアリスシではないですか」と呟きながら翻訳をするのは、なかなか楽しいものです。

現実の生活の中では先生や上司に反論することは難しいと思う人もいるでしょうが、相手が間違ったことをいえば、それを黙って聞いてはいけません。それが先生や上司であっても同じです。

反論してもいいのですし、反論するべきなのですが、もしも日常生活でそうすることができないのであれば、本を読むことが反論するトレーニングになります。幸い、著者は反論しても怒ったりしませんから、安心して反論することができます。

もちろん、これは本の限界でもあります。著者はいつ放しで、読者はおかしいと思っても直接反論できないからです。しかし、今は反論しても著者が直ちにいい返したりしないことを日常生活では反論できるようになるためのトレーニングに使えると考えましょう。

現実の生活で、相手がいつていることが間違いであることに気づいても、それを指摘すると相手が怒り出すとか、指摘したことで自分のことをよく思われないのではないかと恐れて何もいわなければ、相手のためにもなりません。

政治家が答弁の際に漢字を読み間違っているのは、誰も教えないからです。おそらくは、何度も間違いを繰り返す政治家に対して、まわりにいる人は一度は間違いを指摘したことはあつたでしょう。その指摘を素直に受け止めれば、同じ間違いはしないでしょ、今後、他の字を間違つた時にも、間違つことが予想される時にもまわりの人は指摘するでしょう。

ところが、誤りを指摘したのにそれを率直に認めてくれなかったとか、それどころか、指摘されることを嫌い、指摘した人に当たり散らされたというような経験をすれば、まわりの人は二度と誤りを指摘しようとはしなくなるでしょう。

反論の話に戻るならば、実際の対話と違つてありがたいのは、本を読んでいる時には著者との対話をいつでも中断できるということです。また、必要があれば前のページにさかのぼることもできます。

これはおかしいと思つた時、実際の話の中ではもう次の話に移っているので間違いかどうかをたしかめることはできませんが、読書の場合は読むのを中断して確認することができますし、どこが間違っているのかゆっくりと考えることができます。

もちろん、実際の話でも、質問し、それへの答えに反論することはできるはずですが、それができないのであれば、本を読む時に質問、反論するトレーニングを積んでおけば、詭弁を口にする人にも反論できるようになります。

アドラーはそれほど昔の人ではなく、私たちの感覚でいえば明治生まれのおじいさんですが、まだまだ時代が追いついていないと思えるような新しいことをいう一方、もはや今の時代には通用しないこともいつています。例えば、家事は女性がした方がいいとか、結婚は人類のためになされるというようなことです。時代と社会の限界を感じます。

しかし、ただ現代と比較して古いと切り捨てることはできません。言葉尻を捉えるのではなく、著者がどう考えてこのような結論に達したのかを読んでいかなければなりません。古いと切り捨ててしまうと、大抵の古典といわれるような本は読めないこととなります。

先に、相手の立場に身を置くことという意味での共感が本を読む時に必要だと書きましたが、そうした上で、さらに自分だったらどう考えるだろう、どうするだろうと思考した時に、この著者がいつていることがおかしいことに気づきます。

(岸見一郎『本をどう読むか』より)

(注一) アドラー (一八七〇～一九三七)個人心理学を創始したオーストリアの精神科医、精神分析医、心理学者

(注二) プラトン (前四二七～前三四七)古代ギリシア哲学の最盛期であつた紀元前4世紀のアテネを代表する哲学者



問一 傍線部(㉓)「サシ」・(㉔)「ムシエン」・(㉕)「デンキエウ」・(㉖)「フリスシ」・(㉗)「ロウ」のカタカナを漢字で記しなさい。

問二 傍線部(㉘)「疑問」・(㉙)「推測」・(㉚)「唯一」・(㉛)「大抵」・(㉜)「来談」の漢字の読みをひらがなで記しなさい。

問三 傍線部(㉝)の「読書を『対話』にするためには工夫がいろいろあるが、それはどういうことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 試験のために、教科書や参考書を何度も読み返し、試験に受かるために記憶するような読書をする。
- ② 著者と対話するためには、書かれてあることに共感し言っていることを理解するような読書をする。
- ③ 本を読んで対話するには、書かれてあることを著者からただ話を聞くように受身的な読書をする。
- ④ 本を読む時に、著者が何をいつているかをただ追うのではなく、自分でじっくり考える読書をする。
- ⑤ 本を読む時に、書かれてあることを自分で考えながらではなく、著者の考えを読み取る読書をする。

問四 傍線部(㉞)の「このような意味での共感」は本を読む時にも必要です」とあるが、それはどういうことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 相手を理解するために「もしも自分がこの人だったら」と可能な限り相手の立場に身をおいて考えるように、本を読む時にもこのような読み方が必要ということ。
- ② 本を読む時に、著者と自分はライフスタイルが違うということに気づき、自分の物差しを当てて著者の考え方を正しく理解するような読み方が必要ということ。
- ③ カウンセリングをしている時に、大切なことを相手に話さないこともあるように、著者も大切なことを書いていないこともある前提での読み方が必要ということ。
- ④ 本を読む時には、著者の考え方に同意する必要はないが、「なるほど」と感心しながら、著者の考えを理解することに努めるような読み方が必要ということ。
- ⑤ カウンセリングでは、相手を理解する時に注意深く話を聞き、考えを理解するように、本を読む時にも著者の考えを理解するように努める読み方が必要ということ。

問五 傍線部(㉟)の「本を読むことが反論をするトレーニングになります」とあるが、『本を読むことは』どのような点が『反論するトレーニング』になるか。八十文字以上、百二十文字以内で説明しなさい(ただし句読点も一字とする)。

問六 傍線部(㊱)「言葉尻を捉える」とあるが、それはどういう意味か。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 相手の言い間違い、小さな誤りにつけ込んで、それを非難したりすること。
- ② 相手の言葉の言い回しがおかしいから、そのことを捉えて、あざ笑うこと。
- ③ 相手の話の語尾だけを捉えて、自分勝手な解釈をして激しく論破すること。
- ④ 相手の言葉の言い間違いを指摘し、正しいことをしたことに満足すること。
- ⑤ 相手の言葉の言い方がとても楽しくて、自分もまねをして、面白がること。

問七 本文の内容と合致していないものはどれか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから選びなさい。

- ① 本を読む時には、何も考えずに著者から話を聞くように受身的に読み、内容の理解に努めることが大切である。
- ② カウンセラーは、相手の話をただ黙って聞くのではなく、話の内容に注意深く耳を傾けることが大切である。
- ③ 注意深く相手の話を聞いていれば、自分にとって当たり前のことでも、相手とは違う考え方であることに気づく。
- ④ 本への反論は、ありがたいことに実際の対話と違って、著者との対話をこちらの都合で中断できることである。
- ⑤ 読書では著者の立場に共感した上で、自分で思考しているうちに本の内容のおかしいところ気づいていく。

〔二〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ひどく暑い夏の日曜日。ずっと家に籠もっているのもなんだから、娘と散歩に出た。アスファルトからの陽の照り返しもつぐ、道中で娘はたくさん汗をかいた。家に戻り、彼女に冷たい麦茶の入ったコップを渡して、「がぶがぶいっちゃって」<sup>(a)</sup>とリナがすと、彼女は、「嚙むの？」と尋ねた。

確かに言われてみれば、「がぶがぶ」というのは嚙む様子も表す言葉だ。むしろ、飲み物を勢いよく飲む様子をなせ「がぶがぶ」と表現するのか、また、そのことをなせ自分はこれまで不自然に感じなかったのか、急に疑問に思えてきた。少なくとも娘は、「がぶがぶ」と言われて、それを麦茶を飲む行為と結びつけることができなかったのだ。

「さらさら」、「かさかさ」、「わんわん」、「くくく」といった擬音語や、「いらいら」、「ぐらぐら」、「まったり」、「にやり」といった擬態語の総称を、一般にオノマトペと言うが、その種類は実にさまざまだ。

たとえば「ごんごん」というように、大きな桃が川を流れる様子のみを事実上表すオノマトペもあるし、「はるばる」や「ほのほの」などのように、オノマトペに分類すべきかどうか微妙なものもある。また、おおよそ一九七〇年代から日本の街中で見られるようになった「ガチャガチャ」（あるいは「ガチャポン」等々）は、まさにこの装置を操作するときの音や効果を表している。

さらに、時代とともにこれまでとは異なる意味をもち始めるものもある。たとえば「さくさく」は従来、「菓子・果物・野菜などの嚙み」こちらや切れ方が小気味よいさま（広辞苑第七版）を主に指す言葉だった。「さくさくした歯」さえ、「さくさくのペイ」といった用法である。それがいつの頃からか、「さくさく片づける」とか「さくさく進む」という風に、「物事が気持ちよく進行するさま」（同書）という意味をもつようにもなった。

他方で、「ンンンでずんずんする」という表現は、もはや「チン」という音を発する電子レンジが<sup>(b)</sup>「キシヨウ」となった現在でも、時代を超えて生き続けている。「ンンン」という<sup>(c)</sup>「タンシユク」形の表現も広く行き渡っているほどだ。

ともあれ、私たちは日々、無数のオノマトペに取り囲まれ、それらを縦横に駆使しながら生活している。日中は「ぎぎぎ」動きなさいとか、「じやきつ」としなさいなどと怒られ、「くよくよ」したり、「もやもや」したり、「うしろ」したりするけれども、夜、帰宅して、好きな番組で「げらげら」笑い、「もふもふ」した飼猫に<sup>(d)</sup>癒やされ、やがて「すやすや」眠る、といった具合である。

日本語はこのようにオノマトペが多用される言語として知られているが、同様に（あるいは日本語以上に）オノマトペが豊富な言語は世界各国に存在する。英語やドイツ語などのヨーロッパ言語の一部はオノマトペが比較的少ない、ということもあつて、オノマトペは未開・未発達地域の言語に多いという説も根強い。しかし、それこそ日本語（および、朝鮮・韓国語などの諸語）のオノマトペの多さを考えれば、これは多分に<sup>(1)</sup>「バイアス」のかかった見方だといえるだろう。

むしろ、オノマトペを研究する言語学者たちが指摘しているように、それぞれの言語ごとのオノマトペの構造の違いに目を向ける方が適当かもしれない。たとえば、英語のようにオノマトペが主に動詞であるような言語（「The cat meowed.」など）よりも、日本語のようにオノマトペが主に副詞であるような言語（猫がニャーと鳴いた」など）の方がオノマトペに富む、といった可能性が考えられる。

この点に<sup>(4)</sup>鑑みると、オノマトペは言葉未達の幼稚な<sup>(b)</sup>代物であるという、しばしば見受けられる捉え方にも疑問符がつく。雨が降る様子だけでも「しとしと」、「ぼつぼつ」、「ばらばら」、「ざあざあ」といった<sup>(5)</sup>繊細な使い分けがときに要求されるということもむしろ、オノマトペが幼稚どころか<sup>(2)</sup>成熟した言語表現であることを示しているように思われる。

とはいえ、他方で、意見の過程でオノマトペが実際に重宝され、多用されるということも確かである。たとえば、「アーーーが来たね」、「ワンワンだよ」、「これをチヨキチヨキやって」、「これをゴカに力にして」といった表現は、小さな子どもとのコミュニケーションにおいて不可欠なものだ。一〜二歳児向けの絵本『<sup>(注1)</sup>もこもこ』や『<sup>(注2)</sup>じやあじやあじりりり』は、オノマトペだけで成り立っているが、絵との<sup>(3)</sup>相乗効果もあつて、子どもの「食いつき」が抜群によい名作だ。

また、子どもがまだ比喩を使いこなせないとき、たとえば「痛い、痛いー」と叫んでいる子の体に具体的に何が起っているのかを探るために、私たちはしばしばオノマトペに頼って聞き出そうとする。ズキズキするのが、キリキリするのが、シーンとく

るのか、それとも、グーッときているのか、等々。

そしてこれは、子どもだけの話ではない。たとえば昨年私は、生まれてはじめての尿路結石の痛みにオソ<sup>(d)</sup>われた。はじめてだから、何が何やら分らない。とにかく猛烈<sup>(4)</sup>に苦しく、痛い。気の利いた比喩など一切思いつかない。医師に対して、「こゝろが、ズーンときて、ガンガンして……」と伝えるほかなかった。実際、患者の発するオノマトペは、医療現場において診断の補助として重視される要素のひとつだという。

オノマトペは、いわば言語以前の生理的な感覚と密接に結びつきながら、同時に、固有の文化的背景をもったマ<sup>(e)</sup>キレもない言葉の一種として、子どもから大人まで、全世代の生活に広く深く根を張っている。そしてときに<sup>(4)</sup>コミュニケーションのある種の切り札、生命線として、他に代えがたい役割を果たすこともあるのだ。

(古田徹也『いつもの言葉を哲学する』より)

(注1) 『もち もこもち』 作・谷川俊太郎 絵・元永定正 文研出版 一九七七年

(注2) 『じゃあじやあびりびり』 作絵・まついのりこ 偕成社 一九八三年

問一 傍線部②「ウナダ」・③「キシヨウ」・④「タンシエウ」・⑤「オソ」・⑥「マギ」のカタカナを漢字で記しなさい。

問二 傍線部⑦「癒」・⑧「鑑」・⑨「代物」・⑩「繊細」・⑪「猛烈」の漢字の読みをひらがなで記しなさい。

問三 傍線部①「バイアスのかかった見方」とあるが、それはどのようなことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 日本語はオノマトペが多用される言語としてよく知られているが、オノマトペが豊富な言語は世界各国にも存在しているという偏った見方。
- ② ヨーロッパの言語は比較的オノマトペが少ないが、オノマトペが多い言語が必ずしも未開・未発達地域の言語ではないという偏った見方。
- ③ オノマトペは言語未達の幼稚な代物であり、オノマトペが多い日本語は未開・未発達地域の言語として評価されているという偏った見方。
- ④ ヨーロッパの言語は比較的オノマトペが少ないため、日本語のようにオノマトペが多い言語は未開・未発達地域の言語という偏った見方。
- ⑤ オノマトペが少ないヨーロッパ言語とオノマトペが多い日本語の言語は、オノマトペの構造の違いに目を向ける方がいいという偏った見方。

問四 傍線部②「成熟した言語表現」とあるが、どのようなことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① オノマトペは、育児の過程で実際にとても重宝されている言語表現であるということ。
- ② オノマトペは、生理的な感覚など繊細な使い分けができる言語表現であるということ。
- ③ オノマトペは、日本語のように主に副詞として用いられる言語表現であるということ。
- ④ オノマトペは、擬音語や擬態語のように種類が豊富である言語表現であるということ。
- ⑤ オノマトペは、受け継がれながらも日々変化し続けている言語表現であるということ。

問五 傍線部③「相乗効果」を用いて、四十字以内で短文を作りなさい(ただし句読点も一字とする)。

問六 傍線部④「コミュニケーションのある種の切り札、生命線として、他に代えがたい役割を果たすこともあるのだ」とあるが、具体的にはどのような役割を果たしているのか。五十字以上、六十字以内で答えなさい(ただし句読点も一字とする)。

〔三〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

まず、自分の右手と左手を握り合わせてみよう。ただこれだけのことで、たちまち解決のつかない謎が広がる。つまり、こうしたときに、わたしの右手は左手に握られているのだろうか、あるいは、左手が右手に握られているのだろうかという謎である。左右に分裂し、わたしの中に、互に対象化するわたしがいる。話はちよつとややこしくなる。

ボールペンを握るわたしは、ボールペンを対象物として、それが存在することを認識する。同時に、わたしの指先は、変ない方だけれどボールペンによって対象化されている。そのことで、わたしが存在していることを感じる。同じことだけれど、歩いていて、何かにつまずくと、足もとの物体に気づくと同時に、その瞬間痛みを感じる自分がいることを認識する。

このことと関連するが、内科医の熊谷晋一郎<sup>(注1)</sup>は『リハビリの夜』<sup>(注2)</sup>の中で、ものと自分との関係、他者と自分との関係について、自らの体験に基づいて鮮明に語っている。熊谷は、生まれたときに母胎の胎盤に異常があったために、出産時に酸欠になり、脳の「随意的な運動」をつかさどる部分のダメージを受けた(脳性まひ)。そして、物心つく以前から十八歳になるまで、毎日リハビリを受け、夏休みには山のなかにある施設で、リハビリの強化キャンプに参加した。

キャンプでは、健常な身体運動を取り戻すための訓練が行われる。トレーナーによるリハビリは、彼にとって「痛みと怯えと怒り」でしかなかった。それは、トレーナーと訓練者との間に「ほどこつつ拾い合う関係」が成立せず、加害と被害の関係しかないからだつたのだという。そして、トレーナーから解放された夜、身体のコバヤリがほどこけていく快感を感じたと述べている。

結論からいえば、そうした一連の訓練を続けたが結果としては、熊谷は健常な身体運動を取り戻すことはできなかった。

大学の医学部に進学した彼は、独り暮らしを始める。トイレに行くことも着替えるをすることも、風呂に入ることも車椅子に乗ることも一人ではできない人間の独り暮らしである。しかし、「人手を自ら調達しながら主体的に暮らす」ことによって、しだいに、道具や装置あるいは他者との関係の中で、生きていくことができることを実感していく。こうした関係を「協応構造」と熊谷はいう。

研修医となって一年目は、採血や点滴などに苦勞する。しかし、やがて健常な動きはできないが、結果として、異なつたやり方でも、目的を達成すればよいということを認識する。そして、医療行為もチームワークの融合関係によって実践されはいいということに気づく。彼は、世界を関係性で見ようとする柔らかな思考と感覚を獲得していく。そうした思考や感覚によって、自己を見つめることで、健常者は気づきにくい、人間の行動や身の回りの生活環境を実に細やかに分析して捉え直して見せてくれる。

たとえば、一本の足で立つて歩くことができない子どものときから、床を這<sup>は</sup>って身体を移動させる。そこから、床が自分の行為を支えているという感覚が自分の中に広がっていく。つまり床(もの)と自分との相互に対象的な関係が意識されるのである。また、他者という「人手を自ら調達しながら主体的に暮らす」ことや、他者との協働によって仕事を成立させるとき、そこに「協応構造」の関係が生まれる。彼がいう「協応構造」の関係とは、他者と自分との相互に対象的な関係でもある。支配と被支配の関係ではない。それは、左手と右手の握り合う関係と似ている。そうしたことを、彼が鮮明に認識できるのは、自身の不自由な身体を自ら見つめるまなざしを持っているからなのだろう。

人と人との関係と同じように、人ともとの関係も、支配と被支配というどちらかが一方的に支配するといつたのではなく、お互いに何かの力を及ぼしていることがわかる。とすれば、わたしたちはもの(デザイン)を使ってそれらを支配しているだけでなく、もの(デザイン)によって何らかの影響を及ぼされているといつていいだろう。もの(デザイン)によつてちまごまな行為や生活が変化するといつたことでもある。

デザインを決定するには、ものと人間とのこうした関係性が重要な要素としてあることが認識されるべきだろう。

(相木博『デザインの教科書』より)

(注1) 熊谷晋一郎 (一九九七年)日本の医師、科学者

(注2) 『リハビリの夜』 熊谷晋一郎著 二〇〇九年十二月発行

問 傍線部「なぜ」を決定するには、ものと人間とのこうした関係性が重要な要素としてあることが認識されるべきだろう」とあるが、なぜについて著者はどのように考えているのか。百二十字以上、百六十字以内で書きなさい(ただし何説点か一字とする)。



## 令和 8 年度 一般選抜試験問題解答例

国語 配点 100 点

- 〔一〕 問一 (a) 賛成 (b) 矛盾 (c) 言及 (d) 無理筋 (e) 弄 (2 点× 5)
- 問二 (ア) ぎもん (イ) すいそく (ウ) ゆいいつ (エ) たいてい  
(オ) らいだん (2 点× 5)
- 問三 ④ (3 点)
- 問四 ① (3 点)
- 問五 本を読むことは、著者と対話することと同じで、著者が言っていることにおかしいと思った場合、読むのを中断して確認したり、どこが間違っているのかを考えたりすることができ、しかも言い返されたりすることも気にせず反論できる点がトレーニングになる。 (10 点)
- 問六 ① (3 点)
- 問七 ① (3 点)
- 〔二〕 問一 (a) 促 (b) 希少・稀少 (c) 短縮 (d) 襲 (e) 紛 (2 点× 5)
- 問二 (ア) い (イ) かんが (ウ) しろもの (エ) せんさい  
(オ) もうれつ (2 点× 5)
- 問三 ④ (3 点)
- 問四 ② (3 点)
- 問五 勉強に励みつつ規則正しい生活を送った相乗効果で、集中力が高まり成績が向上した。 (5 点)
- 問六 子どもの伝えたいことを聞き出したり、身体の異変を伝えたり、言葉で説明できない際のコミュニケーションの助けとなる役割。 (7 点)
- 〔三〕 問 道具や装置あるいは他者との関係の中で感じた「協応構造」は、人やものとの相互に対象的な関係である。デザインを決定するためにももの(デザイン)に意識が向いがちになる。しかし、デザインにおいて、ものと人間との相互の関係に意識を向けて互いの関係を理解することが重要であると考ええる。 (20 点)

# 試験会場までの案内

## 本学会場

### 盛岡大学・盛岡大学短期大学部

岩手県滝沢市砂込808番地  
〒020-0694 ☎019-688-5560

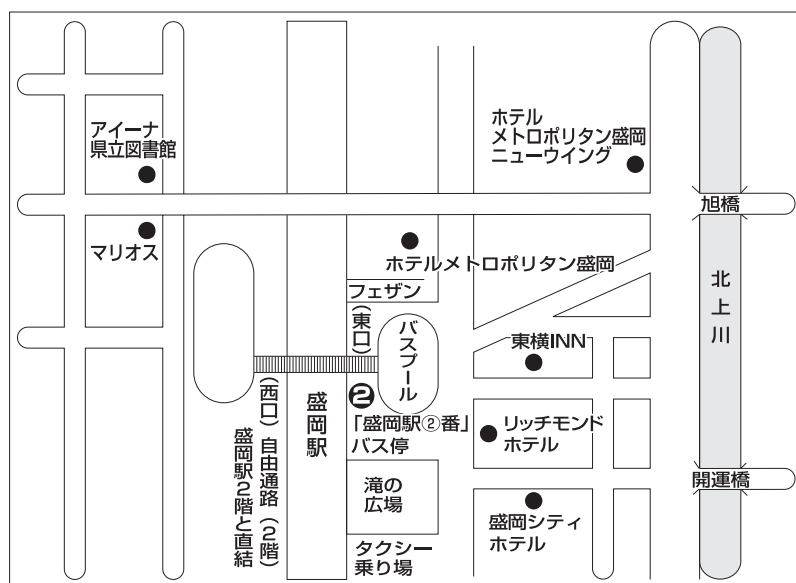
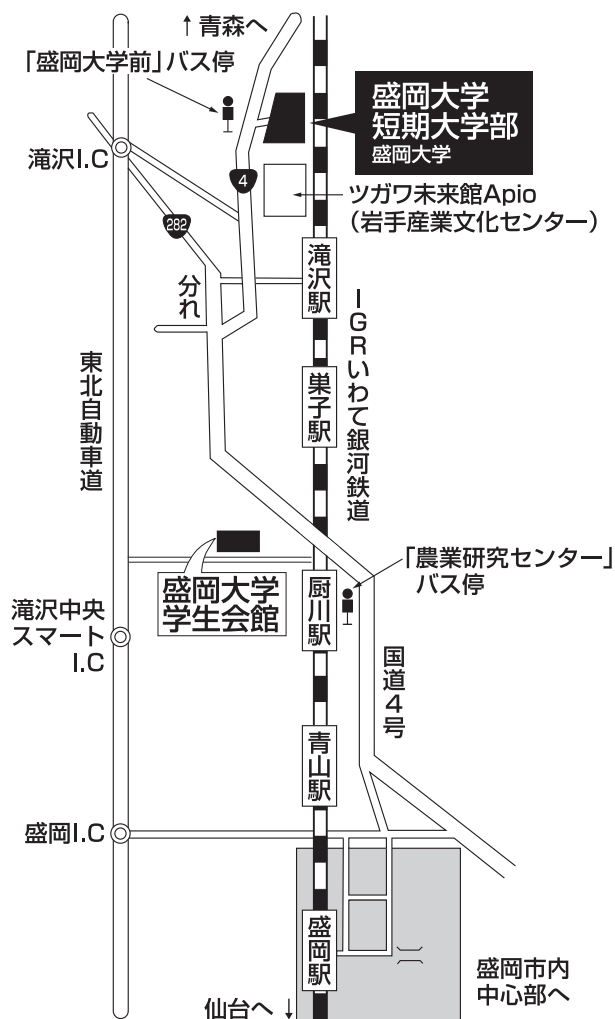
交通案内……………

◎盛岡市内から  
岩手県北バスぬまぐない「沼宮内行」乗車  
「盛岡大学前」下車

#### 所要時間

「盛岡バスセンター③番」から約40分  
「盛岡駅東口②番」から約30分

◎自動車で  
東北自動車道滝沢インターチェンジより国道4号を  
青森方面に向かい約5分  
\*「盛岡駅東口②番」のバス停は下図参照



- 特別選抜要項（願書）
- その他資料請求

はこちらから



〒 020-0694 岩手県滝沢市砂込 808 番地

**盛岡大学・盛岡大学短期大学部 入試センター**

☎ 019-688-5560（直） ☎ 019-688-5555（代）

<https://www.morioka-u.ac.jp/>

E-mail : [mcnyushi@morioka-u.ac.jp](mailto:mcnyushi@morioka-u.ac.jp)

#### **盛岡大学・盛岡大学短期大学部 資料請求における個人情報の取扱いについて**

ご提供いただいた個人情報は、学内で管理し、大学案内や願書、オープンキャンパスの案内等本学の情報の発信のため以外には使用しません。学内資料作成のために個人を特定しない形で、統計的な調査に使用することがあります。

今後、本学からの資料の発送等の情報提供が不要の場合は本学入試センターにご連絡ください。